

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年6月30日現在

今月の重点活動

■いちご 若手生産者に対する勉強会を開催

6月19日、本巣市の若手生産者の育苗ほにおいて、いちご栽培勉強会を開催した。本巣市の若手生産者、新規就農者研修施設7期生の8名が参加し、各ほ場で栽培管理の方法について説明し、疑問点や対応策について意見交換を行った。

うどんこ病が全般的に発生しており、農薬防除の履歴や効果、葉害などが議論となった。また、6月に就農した7期生は、他の生産者の育苗管理について関心が高く、積極的に質問をするなど情報収集に努めていた。

農業普及課からは、管内いちごの生育状況や栽培管理について情報を提供した。今後は、若手生産者の栽培状況を確認し、育苗管理、炭そ病対策について指導を行う。
(園芸産地支援第一係・渡辺新一、遠藤るみ子)



【勉強会の様子】

活力ある新産地づくり

■秋冬ブロッコリー 各支部栽培研修会を開催

J Aぎふブロッコリー生産連絡協議会では、苗注文に先立ち、支部単位に栽培研修会を開催しており、農業普及課では品種と定植日の組み合わせパターンなど地域の実態にあった提案を行っている。協議会では11月～2月の間の安定出荷を目指しており、各生産者に長期収穫を働きかけるため、全7支部において、7月上旬まで順次、栽培研修会を開催する。

また、J A担当者とともに、大規模栽培者等を訪問し、ブロッコリー栽培計画について打ち合わせた。農業普及課では、他品目の作業スケジュールやブロッコリーの栽培予定面積など、対象者の意向や労働力を確認しながら、適切な作型や品種を提案している。
(地域支援第一係・稲葉千佳)



【研修会の様子】

売れる農畜産物づくり

■飼料用米 新たな耕畜連携を模索するプロジェクト

6月6日、山県市内の養豚農家から供給される堆肥を用いた飼料用米専用品種「モミロマン」の実証ほで移植が行われた。

この実証ほは、平成27年度の経営所得安定対策の新たな取組として、①未利用資源の活用、②低コスト飼料用米生産、③産地交付金の新たな取組支援を同時に果たすプロジェクトに位置づけられている。農業普及課は、堆肥散布量の確認と土壌分析サンプルの採取を行い、今後は実証ほの生育調査を行う。また、安価な硫安分施体系に加え、被覆窒素肥料を活用した省力体系、主食用品種「あさひの夢」のための実証ほも併せて設置した。
(地域支援第三係・吉田一昭)



【飼料用米の移植】

■えだまめ 露地目揃会を開催

6月12日、15日、19日、J Aぎふ島集荷場、曾我屋選果場、黒野流通センターにおいて、J Aぎふえだまめ部会員を対象とした露地えだまめの目揃会が開催された。

目揃会に続いて行われた栽培研修会では、農業普及課から、ぎふクリーン農業の登録変更やえだまめの黄化症状の原因と対策、農薬の適正使用などについての情報提供を行った。

参加者からは、害虫対策などの質問があり、真剣さが伝わる目揃会であった。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【えだまめ目揃会の様子】

戦略的な流通・販売

■いちご、えだまめ等 本年度のGAP点検項目と評価基準を決定

6月16日、岐阜市園芸振興会各部長、JA担当者を交えた、GAPの打ち合わせを行い、農業普及課から、各点検項目の評価基準案と現地調査及び自己点検シート案について説明した。

生産者に対する現地調査結果の伝達方法について議論となり、当初考えていた点数開示については、生産者からの不満や抵抗が大きくなることが想定されるため、改善すべき項目のみを現地調査終了時に返却し、意識向上を図ることとした。

(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【GAP打ち合わせの様子】

■にんじん にんじん産地戦略会議を開催

6月24日に、JA、市役所、農業振興課、農業普及課の関係機関が参集し、にんじん産地戦略会議を開催した。

今回は、にんじんの主産地である各務原市鵜沼地区の農地利用状況を確認することをテーマとし、畑地の利用状況を初めてマッピングした。この地図をベースに、農地利用調整や利用意向調査等を行い、農地中間管理事業を活用して、どのように規模拡大に繋げていけるかを協議した。

(地域支援第二係・野口雅弘)



【農地利用状況を確認】

魅力ある農村づくり

■羽島市沖地区 「自分達の集落をどうするか」を考える(2)

羽島市沖地区では、今春より「自分達の集落をどうするか」という提言が出され、5月17日には「集落営農」について全体勉強会が開催され、集落営農に向けた第一歩を踏み出した。

勉強会開催後は、市役所や地区の役員に対し、色々な質問や意見が寄せられ、その関心の高さを実感することができた。そこで、次の段階へ進めるため、地区の役員(準備委員会)、JA、市役所と打合せを行った結果、勉強会後の意見を参考に、疑問点(用語説明や勉強会の質疑応答等)を解説する会合を8月に開催する。事前にアンケートを実施し、地域住民が抱える疑問点や不安事項などを情報収集することとなった。

今回の打合せで、「沖地区を何とかしないといけないと思っている。」という準備委員会全員の総意を確認することができ、この機運を無駄にしないよう、支援を継続することとしている。

(地域支援第二係・山田隆史)



【準備委員会との打合せ】

■かき かき園に被害を及ぼす獣の調査を開始

5月下旬より、本巣市文殊円蔵洞地内のかき園に、トレイルカメラを設置し、かきに被害を及ぼす害獣の撮影を開始した。これは、かきを加害する獣を特定するとともに、かき農家に対策の必要性を啓発する手段として行った。

円蔵洞は、地権者は岐阜市民であるため、両市からの対策が遅れている地域と判断し、調査することとした。かき園内、かき園に通じるけもの道などにトレイルカメラを設置したところ、撮影された害獣はニホンジカが多く、他にはイノシシ、ハクビシン、タヌキ、ノウサギが確認された。従来認められる春の葉の食害、枝折れなどは、ニホンジカによるものと推察できた。

農業普及課では調査結果をまとめ、6月24日に円蔵洞の地権者を含む岐阜市西秋沢自治会に実態を示しながら、集落として対策を図るよう働きかけた。

(園芸産地支援第二係・青山 哲)



【かき園にニホンジカが侵入】